

製品名: レボマンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17025**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	120-130kDa

抗原情報

遺伝子名	CDCA2
別名	CDCA2; Cell division cycle-associated protein 2; Recruits PP1 onto mitotic chromatin at anaphase protein; Repo-Man
遺伝子 ID	157313.0
SwissProt ID	Q69YH5
免疫原	抗血清はヒト CDCA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 511-560

背景

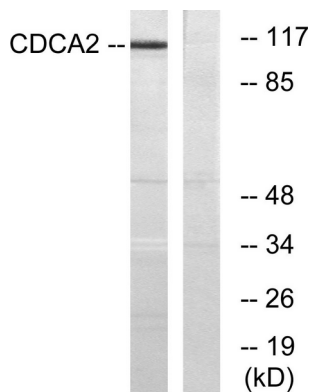
細胞分裂周期関連遺伝子 2 (CDCA2) ホモサピエンスこの遺伝子は、細胞周期関連タンパク質であるタンパク質ホスファターゼ 1 の

標的サブユニットをコードし、分裂後期にこのタンパク質をクロマチンに標的化する役割を果たします。これら 2つのタンパク質は、核膜再編成と DNA 損傷応答の調節に関与するホスファターゼ複合体を構成します。コードされているタンパク質は、がんの進行にも関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015年12月]機能: 有糸分裂中の染色体構造の調節因子であり、コンデンシンが欠損した染色体が分裂後期を通してコンパクトな構造を維持するために必要です。分裂後期およびそれに続く間期に、ホスファターゼ PP1- γ サブユニット (PPP1CC) をクロマチンにリクルートすることで作用します。後期開始時には、クロマチンとの会合により PPP1CC プールを標的とし、基質を脱リン酸化します。PTM: CDK1 によってリン酸化されます。細胞内局在を調節する可能性があります。細胞内局在: 核小体から排除されます。細胞周期の G1 期、S 期、G2 期を通して核質に存在します。M 期には核膜が崩壊するにつれて細胞全体に拡散し、その後、中期クロマチン上にわずかに蓄積します。細胞が後期に進むにつれて、クロマチン上に蓄積します。サブユニット: PPP1CC と相互作用します。組織特異性: 普遍的に発現しています。

研究分野

クロマチン修飾酵素、リン酸化、細胞生物学、細胞周期、細胞分裂、その他の細胞分裂抗体、エピジェネティクスと核シグナル伝達、染色体構造、クロマチンアセンブリ

画像データ



CDCA2 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した Repo-Man ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。